

V 各種研修の実施

1 森林生態系スペシャリスト養成研修

生物多様性復元に向けた様々な取組みが実践されている赤谷の森において、関東森林管理局の「森林生態系スペシャリスト養成研修」の現地研修が開催されました。

赤谷センター職員から、いきもの村において、赤谷プロジェクトの概要、センサーカメラによる自然観察について解説しました。

その後、センサーカメラの設置、猛禽類の見分け方・定点観測、森林土壌の調査などの実習を行いました。

また、茂倉沢では、溪流環境復元のための治山ダム中央部撤去工事に向けた取組みを紹介するとともに、溪畔林の植生についても解説しました。

研修生が職場に戻った際、この研修で学んだことを活かして、森林生態系全体を考えながら森林施業に取り組んでいただければと思います。



野生動物をモニタリングするための
センサーカメラの設置を実習

猛禽類の見分け方を解説



2 JICA海外技術研修「持続可能な森林経営の実践活動促進Ⅱ研修」

平成20年10月、今年度も森林技術総合研修所が実施している海外技術研修「持続可能な森林経営の実践活動促進Ⅱ研修」の「参加型森林経営手法」の現地講義として、アフリカ、ブラジル、アジアの研修生11名が赤谷の森を訪れました。研修生の皆さんは、母国に帰って森林・林業分野のリーダーとなる方々です。

当日は、いきもの村や旧猿ヶ京小学校を活用し、赤谷プロジェクトの経緯、取組み、さらには、三国街道沿いのブナ林で赤谷プロジェクトの目指す森林のイメージなどを解説しました。

三国街道は紅葉も見事で、南国出身が多い研修生からは感動の声が上がっていました。母国に帰っても、赤谷の森を思い出して欲しいと思います。



三国峠、秋のブナ林で赤谷プロジェクトが目指す森林のイメージを解説

研修が終わり永井宿郷土資料館で記念撮影



3 「アマゾン群馬の森」 J I C A草の根技術協力事業

群馬県が J I C A の委託を受け、「 J I C A 草の根協力事業」として、ブラジルのアマゾン群馬の森関係者への研修を実施しています。群馬県担当者から、アマゾン群馬の森では関係者で協働して活動していることや、森の中にアルマジロなどの動物が生息しており赤谷プロジェクトで取り組んでいるホンデンモニタリング調査に興味があることから、11月の「赤谷の日」に研修の一環として参加したいとの希望があり、研修の協力をしました。

実施日時は、11月7日及び8日でした。ブラジルからの研修生は男性4名で、地元住民やアマゾン群馬の森ビジターセンター管理人等で、23才から65才の方々でした。この他に、スタッフとして群馬県職員2名と通訳1名が参加しました。

1日目は、「赤谷の日」が始まる前に、センター職員から、赤谷プロジェクトの概要とセンサーカメラによる動物調査の説明をしました。その後、研修生は、「赤谷の日」のホンデンモニタリング調査に参加しました。研修生はサポーターの調査に同行し、センター職員から調査方法などについて説明を受けました。研修生は初めての経験で興味深げでした。



ホンドテン調査の様子



アマゾン群馬の森における活動説明

「赤谷の日」の調査活動終了後は、いきもの村で群馬県担当者より、アマゾン群馬の森における活動について説明があり、また、研修生とサポーターで夕食をともにしながら交流を図りました。

2日目は、研修生たちは、いきもの村での広葉樹種子豊凶調査を体験をしたあと、赤谷の森の自然誌調査（いつ、どこで、なにが、どうなっていた）に参加しました。

実施場所は、旧三国街道で、新潟県側トンネル口から三国峠までを往復し、途中、センター職員から周辺の自然や歴史について説明を受けました。

研修生たちは、地元ブラジルとまったく違う自然を体験し、とても喜んでいました。



広葉樹種子豊凶調査の様子

4 JICA国別研修・インド環境森林省

平成21年11月、JICA国別研修でインド環境森林省森林保全局、森林教育委員会、森林管理中央学校の方々が、利根沼田森林管理署管内を来訪しました。

関東森林管理局、利根沼田森林管理署の概要と取組みを説明したのち、いきもの村で赤谷プロジェクトの活動について紹介しました。また、茂倉沢では、治山ダム中央部撤去の取組みを解説しました。

インドと日本では地方政府の階層・仕組みが大きく異なることから、「地域」の捉え方の相違点について質疑応答が盛んにありました。また、官民協働の仕組みや地元と連携した森林環境教育への取組みについて非常に関心が高かったところです。



「いきもの村」で猛禽類観察テラスも紹介

茂倉沢治山事業の取組を現地で解説

